

等
 荒山神社其後詔奉授從五位上勳四
 續日本紀云仁明天皇諱正良嵯峨帝 第二子 年十四御世承和
 三年十二月庚子朔丁巳詔下野國河内郡
 二荒神社奉授正五位下於是社之南面
 有道路行人征馬動失禮即蒙神怒
 遭災難仍輸難往來之間同七年塞壘
 道詔奉遷於北面白峯今之社壇是也或
 稱宇都宮

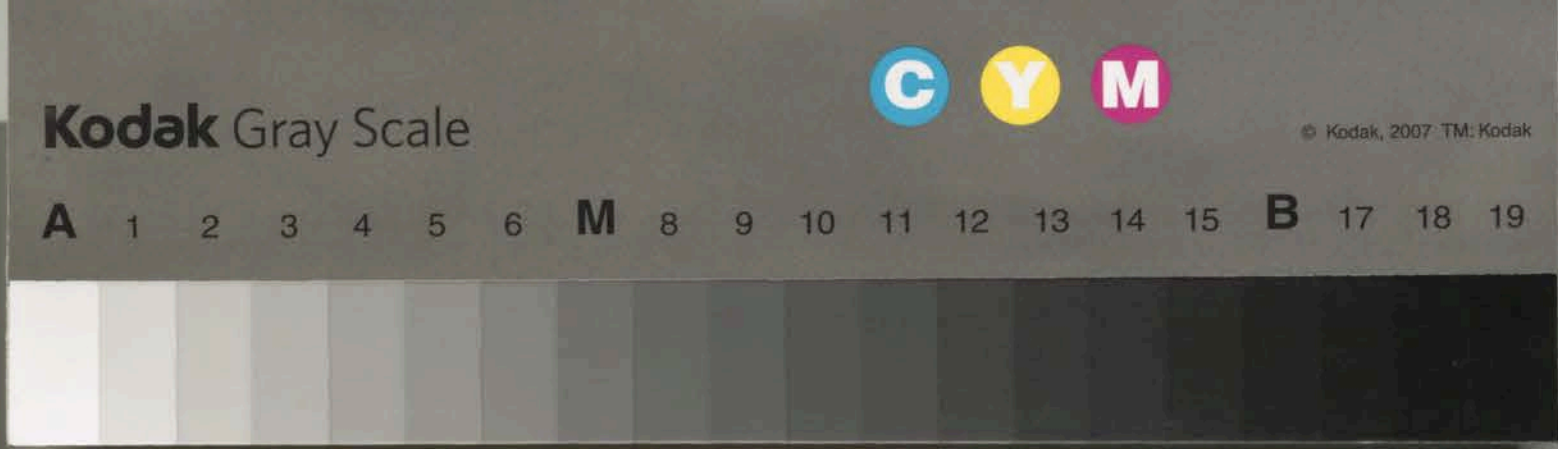
社記云六十代醍醐天皇諱敦仁宇多 帝之子延長五年
 十二月所奏進延喜式已載河内郡二荒山
 神社名神大
 是と彼とを合せ見たり日光今之宇都宮
 遷祭り奉りしをり知るし又往古
 の中山道ハ上妙今之日光を經く高系
 峠を越る會津奥州に通外せし
 をもちしし一尤延喜式いまも撰き
 前の事ありしを勿論之

押原推移録中巻
 三十

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





往古奥州街道考
并 判官塚橋治塚辨論

古老話云今の坂田稻荷祠の寺に古の奥州
 街道より牛若丸金賣橋治に伴まき
 奥州下り時の道之といふ故に至生の寺に
 義経纒掛松又彌義赤家村に判官塚
 稻葉村に橋治塚ホの古跡ありと傳へ
 按に今の宿地寺町西側より今入て裏通
 をゆく道有り昔より是を順徳海道と
 いふは可なる申急よのあふん審あるは思
 ふふ順徳公部杯の古峯々原石裂山杯
 諸する道ありし可故に然名付し歟今し
 道の跡僅に残りて石裂古峯々原へ通
 行する坂下より出る細道あり又花園村に
 通るよりさるるさあり又新町乃裏通りに
 並木といふ地名の古道有り是則堯
 のいつは古乃奥州さるるき狭々の並木
 の道の片邊に字首切り田といふ地名

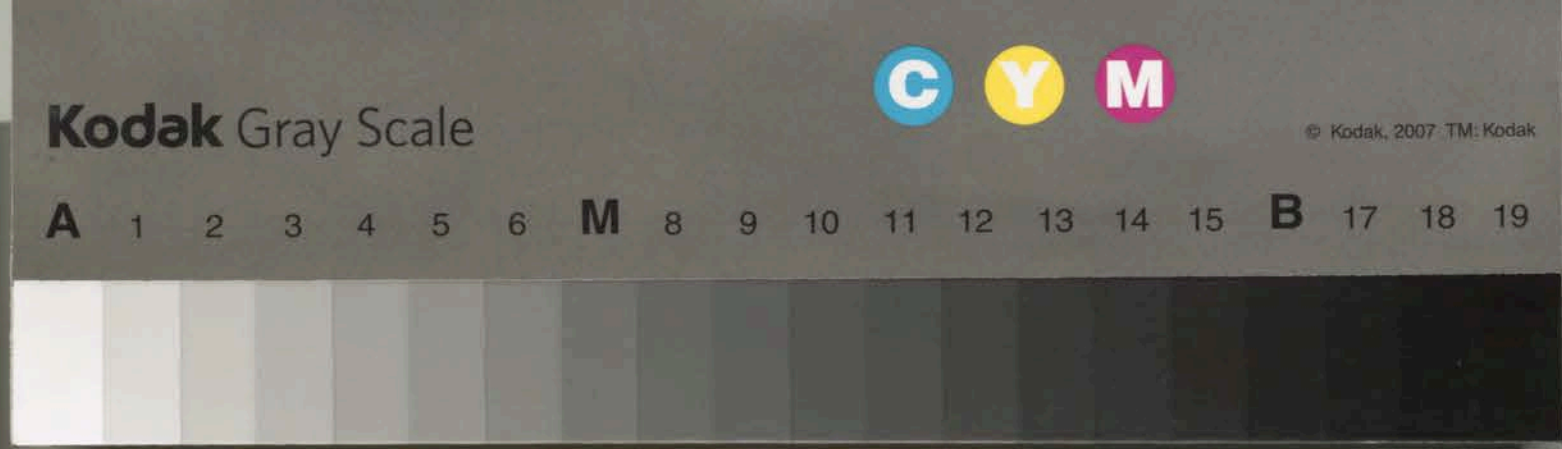
押原推移録中巻

此一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2



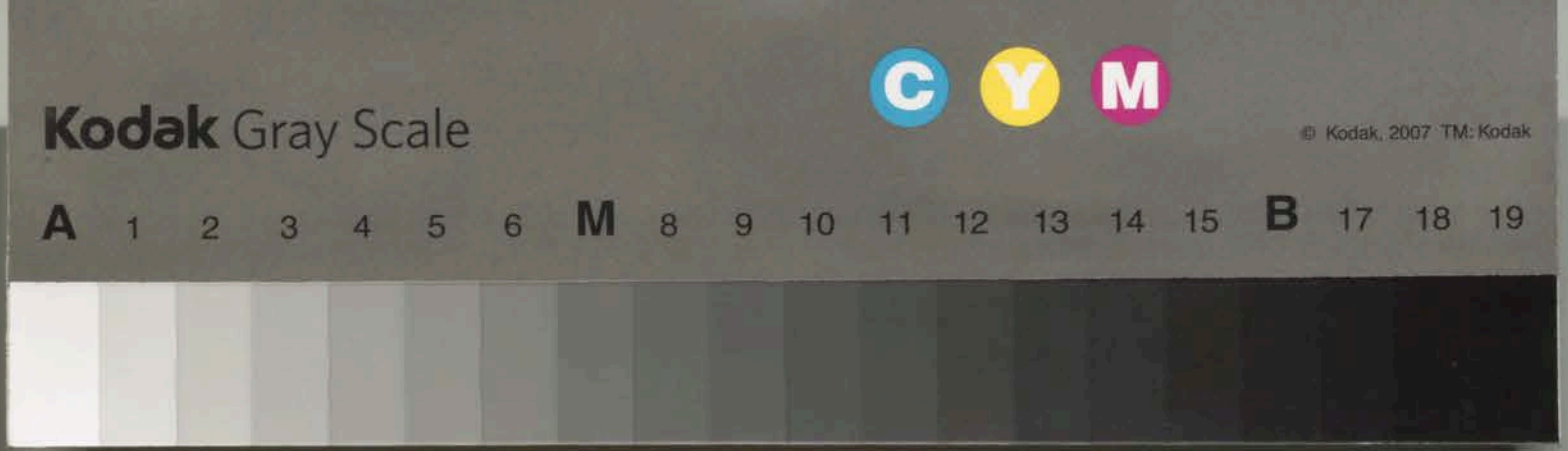


あり古の刑罪場の跡と云ふ古の往還に
 非しといふ刑罪場ありきや古の
 説に証しあり此事未了
辨次
 ○判官塚ハ赤塚村街道の西畑中子あり
 予往年の時至りて之に高さ八尺余長間
 余も何れも一面に芝生あり塚入口高尺
 余巾一尺八九寸之深く掘りて匍匐して穴の
 内暗しと見分難し松火を燈しとて之に
 上ハ一面に石を以て墨とて塚の奥西方子
 三間計りあり程一段高さあり俗の説ハ
 義経奥州一遁行し時爰に隠きたり
 と持し故に地名を判官臺と呼其塚を
 云々判官塚といふ
 按に義経の隠きりといふハ信が
 義経奥州一遁行下りし道詭異説區々
 ありきとも其實説ハ義経主従二年に別き
 一年ハ辨慶義経の御基所を御供
 了十二人の作り山伏とありて下り一年ハ

押原推移録中ノ卷

卅二



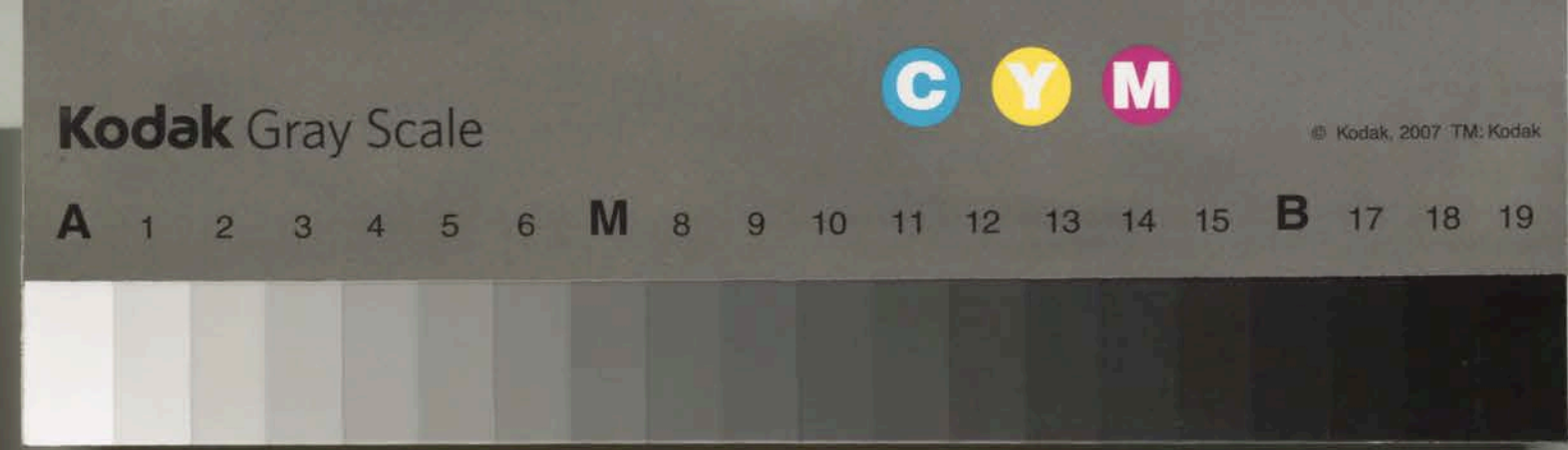


義経主従五人朽木越前守
 氣比大明神の一の禰宜金清の許子
 宿熊井太郎の爰舟に越後國出
 雲崎子著同國乙寺乃満善阿闍利
 多田源氏の一族也此僧を案内者として
 津川柳津會津を過つ奥州一着と云
此話事長けさハ大子畧記に委し
中隨筆雜助雜記二篇目あり 如斯くありバ義経の
 隠すハ悲ハ熊ハを判官塚と呼ハ
 め何ハ由ハありん再考に義経奥
 州一遁下るとに杉目行信の如の容兒子
 似ハを以て辨慶に御臺所をと
 山伏乃形子妙也了歩行道を下と
 和のきハ越前守を舟路を忍び了妻
 子下ハ其機謀かハのめハ故子此海道
 一ハ熊ハとあハぬ人を義経と名乗と
 了下ハやハあハん知ハつハ
 井上信好を判官塚上古の園造の墓の
 跡ありハ我ハ思ハつハ惣ハ了生朽木守

押原雅密録中巻

世三





斯る大なる塚共數多あり壬生乃西
 大塚村より車塚牛塚採つて大なるあ
 り始下野國に郡を分ケ名を定むる
 時國造の墓の誌多きを以て墓の郡
 とし塚多きを以て塚郡と名付たり
 天武天皇の御代詔ありて諸國の
 郡名共善文字を撰みて佳名を擧
 げし制ありて今都賀芳賀乃
 文字より改めしありしなり

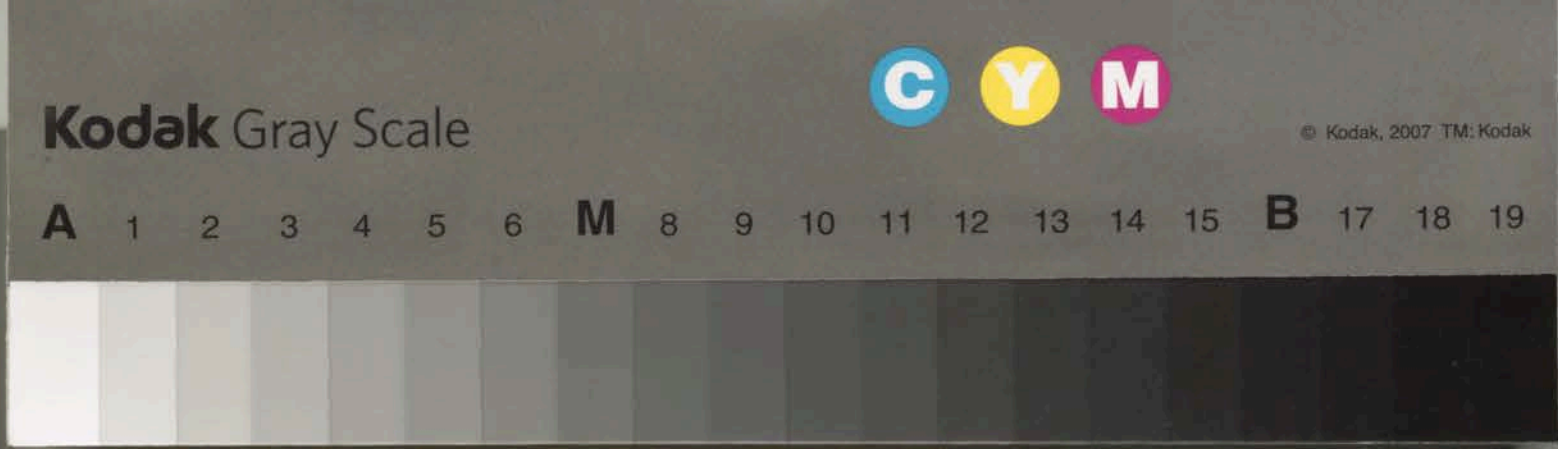
○橘治塚ハ福葉村海東の東畑中より
 矢来と結廻しあり土人地名を吉次内
 といふ矢来をせきぬ墓印の石橋あり
 今友下野庵宮住云橘治塚と号せる今
 の世處にあり世俗云橘治盜難を思
 へり墳墓を所り築り死せりと云觸
 して其害を遁言んとせし古跡あり
 と云此説なり
 非あり抑橘治塚ハ吉事塚の音
 此御音なり

押原雅移録中ノ卷
 北四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2



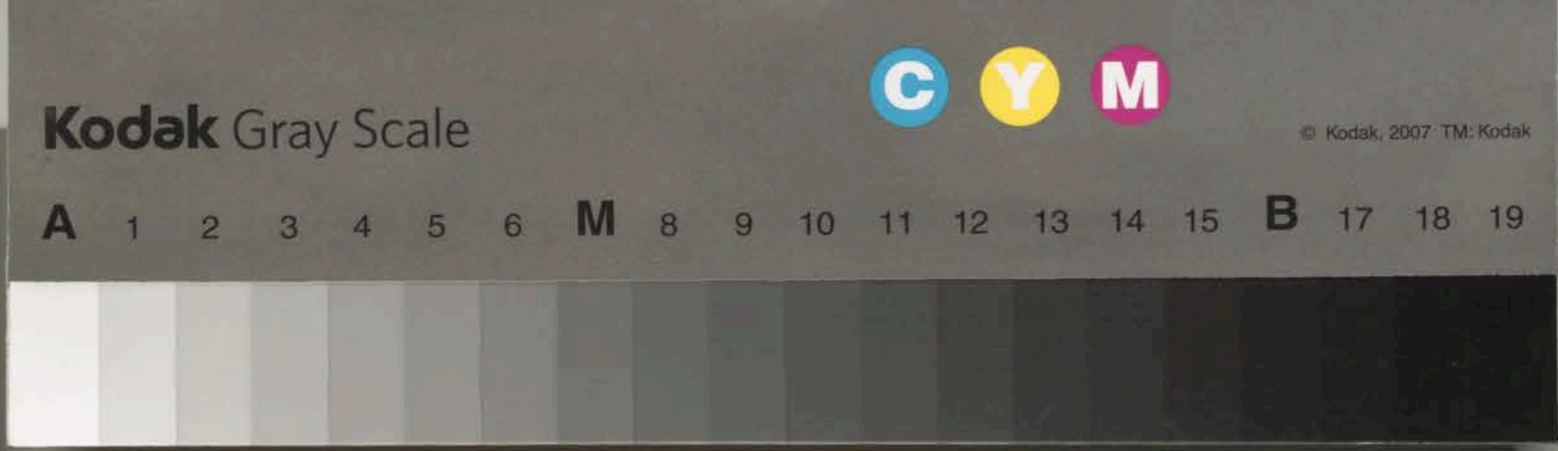


記さるりの之凡軍子出て敵將の首をとて
 軍神を祭る事 あり則其所子塚を築
 きて吉事塚と号し後人是を誤りて金賣
 橋治の墓と云ふ
 押原地名説
 土俗の語子此邊を押あり昔ハ原あり
 押原と唱ふるよりさきと云ふ事何事
 と定りし地塚今ハ慥ハ知りしと云ふ
 又一説子古ハ那須の大野ハ今續きて京の
 多ありしガ鹿沼の里抄りの原より押
 止りありしと云 押原と名付しと云ふ
 鹿沼地名辨 同地名考
 古老の語子膏^{カミ}初白鹿城邊の沼より出
 り鹿沼と号せしと云ふ今西鹿沼村
 沼の跡より追々埋きていと狭き沼の位
 あり又ハ玉田村辨 天の池ありとも云ふ
 按に此説信^{ヤク}ずしと云ふ白鹿の古
 といつる頗怪談と云ふ

押原推移録中巻

卅五





史記地理志云白鹿原在陝西永興郡
 藍田縣西五里周平王時有白鹿故名
 云白鹿坡ト云
 和漢同日の語といふ一例の好事の
 者の鹿沼といふ地名よりして此説を
 ろや一ある一前子録する如く建久
 年中頼朝日光三社に六十郷を寄附
 せしむるに鹿沼を以て一郷とすといふ
 若沼乃地名不古く建久二年より

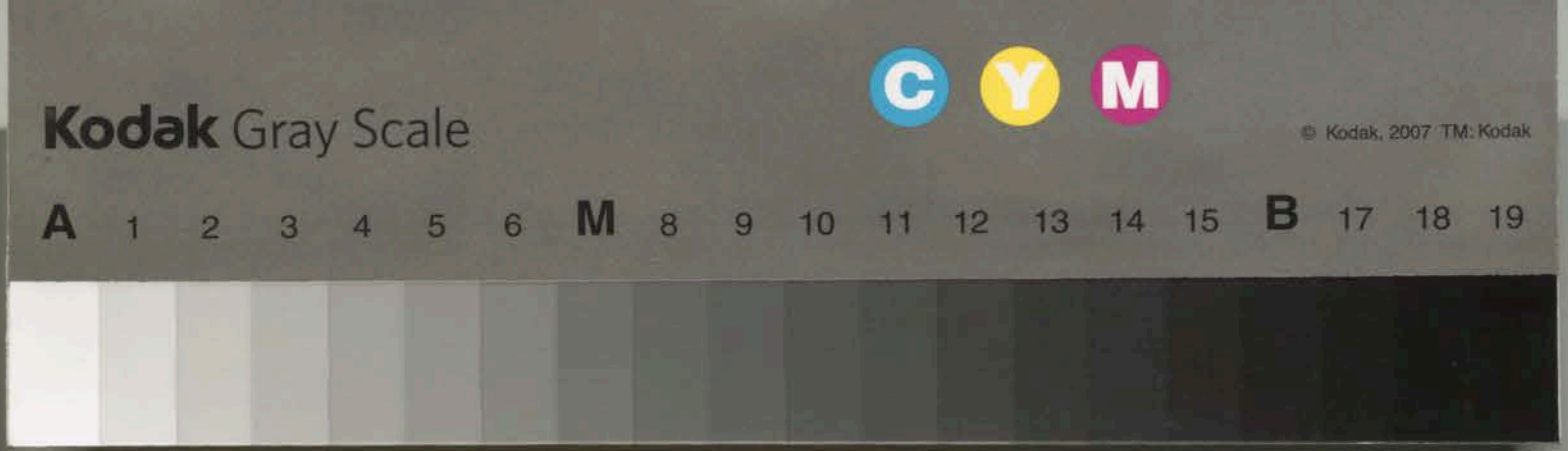
至今文政九年丙戌年數六百三十五年也
 其以前の事ハ所見ありきハ考據あり
 然るも壬生家城を築一時白鹿の端あり
 一子依り鹿沼と号し以て浮説ハ取
 是れハと知る一近き證を以てい
 正應年中鹿沼權之郎入道の時鹿沼
 の文字あり壬生家城を築ける天文
 年中よりハ二百四十余年前一
 予が歌垣乃友大江戸の任源真揖云按に

押原推移録中ノ卷
 卅六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





當國ハ原^モ來毛野國といひてすて野系多ク
 此書中子もいひきくは如く那須野より
 押あてて京野ありんことを思ふに鹿
 沼ハ假字より萱草沼ありてしもはずに
 此のれくすふ中録ハ鹿沼押入城の西
 方に西若沼村とて左右に山を引き合は
 ず外より地面の一段低き處より大昔川
 乃水を用水といふ此川を堰^{ヤキ}留^ドま^シ村に
 一面の湖水とありて水の深き事限り
 志^カく^キき^ハく^キ有^ク處ハ原野の中あきハ萱草^カ
 木のつらつらま^カのま^カを萱^カある沼あき
 萱草沼といふべきを若沼といふ省言之草
 あきハ萱草沼といふりの六十六郷の内子
 芥沼といふ處あるハ芥^セ比^ヒ多^クき^ハあ^キを
 けん宇都宮の東子毛奴川の水を引て
 沼をつくれる處を水沼といふ類之萱草^カ
 草の惣名より古事記上巻子野神名^ニ
 鹿屋野比賣神云々書化神代より草祖

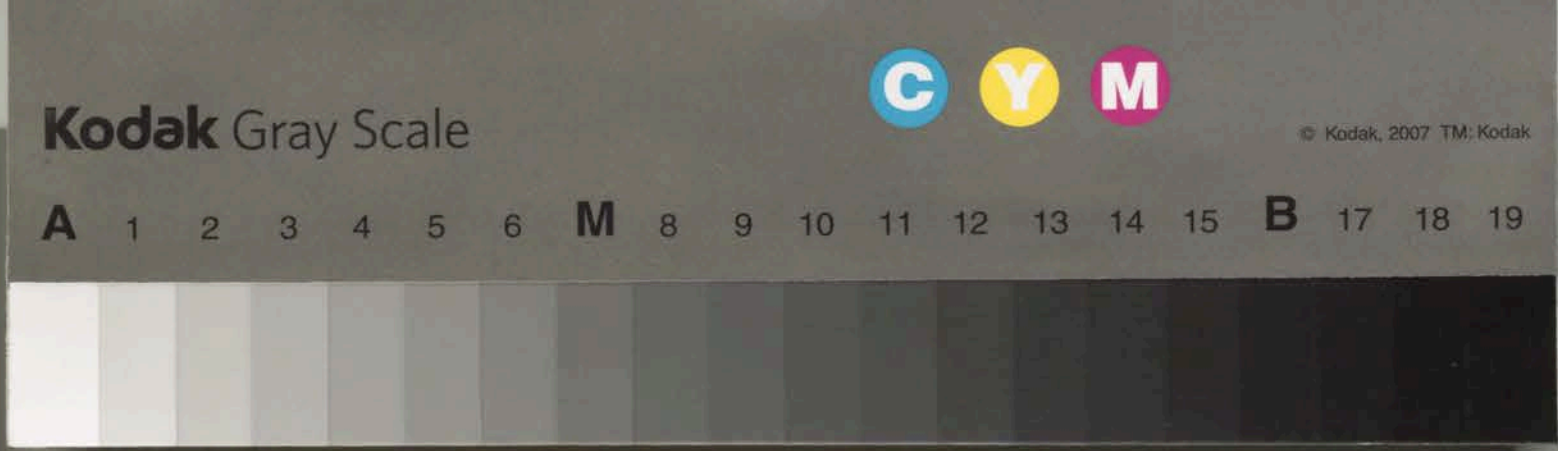
押原推後録中ノ巻

世七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





草野^{カヤ}娘^{ニギハヤヒ}云々ありて野ハ草^{カヤ}のありて可^カ處之
 きて鹿屋^カ沼^ノの屋^ヤを省^シきて鹿沼^{カノ}といふ
 常^{ツネ}の事^{コト}之^ノ今^{イマ}も水沼^{ミヅノ}と水沼^{ミヅノ}といふあり
 吾^ワ黨^{カト}散^ト木^キ子^コむらゝ諸家^{モロカ}の記^キ録^{ロク}を考^{カウ}へあ
 へせし此書^{コト}を編^ヒるに宿^{ヤク}りありて其^{ソノ}後^{ノチ}
 ひける今^{イマ}宮^{ミヤ}の傍^{ナド}今^{イマ}も沼^ノありて其^{ソノ}多^タ
 生^{ナマ}志^シけり今^{イマ}より之^ノ是^{コト}よりバ神沼^{カノ}やも
 思^{オモ}ひるまきと今^{イマ}宮^{ミヤ}造^{ツク}立^ツの時^{トキ}よりきき鹿沼^{カノ}
 の名^ナありて從^ツ萱沼^{カノ}ありて古^コ事^{コト}記^キ録^{ロク}平^ヘ

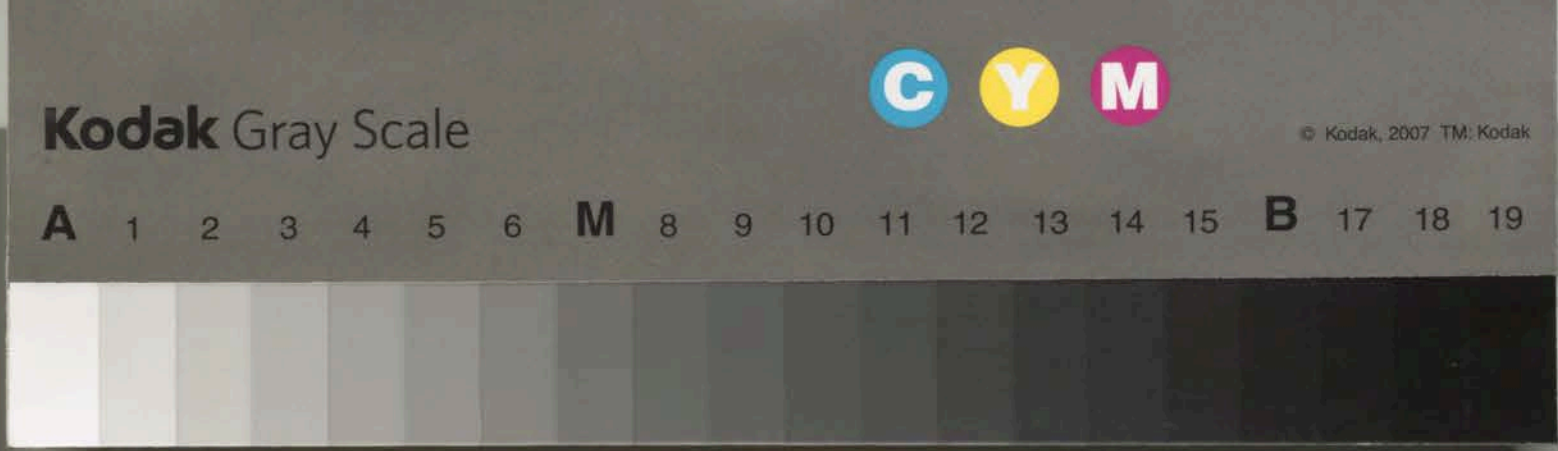
此^{コト}云^フ加^カ夜^ヤと云^フえり其^{ソノ}多^タもあき薄^{ウソク}もあき
 屋^ヤ草^{クサ}草^{クサ}を加^カ夜^ヤといふ古^コも今^{イマ}も同^{ドウ}一^{イツ}神代^{カミヨ}
 之^ノハ鶴^{ツル}羽^ハをもちやといふ也^{ナリ}今^{イマ}宮^{ミヤ}のこゝりの
 沼^ノ今^{イマ}も其^{ソノ}多^タを思^{オモ}ひ押^{オシ}原^{ハラ}ハ其^{ソノ}原^{ハラ}もや
 才^サとアハ同^{ドウ}音^ネの中^{ナカ}ももに近^{チカ}く其^{ソノ}多^タこゝの
 下^{シタ}いハ其^{ソノ}音^ネ之^ノ猶^{ナド}思^{オモ}ひに山^{ヤマ}中^{ナカ}録^{ロク}ハ鹿沼^{カノ}
 押^{オシ}原^{ハラ}城^{シロ}と書^カくをえりバ押^{オシ}原^{ハラ}ハ其^{ソノ}城^{シロ}築^{ツク}れり
 時^{トキ}より其名^ナより鹿沼^{カノ}ハ其^{ソノ}鎌^{カマ}倉^{クラ}右^{ミダ}大^{ダイ}将^{シャウ}家^カ
 日^ヒ光^{ミツ}三^{サン}社^{シャ}ノ大^{ダイ}神^{カミ}ハ六^{ロク}十^{ジュウ}六^{ロク}郷^{キョウ}を寄^ヨ附^{ツケ}せ

押原推殺録中ノ卷
 卅八

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





給つ時すつ子唐沼を、もて料と云とも
 又正應に唐沼權二郎といふ人ありと云
 書中子思申やて押京城を築き大
 芦川の水を要害に可れと云も一六
 大芦原をいなき歟斯る事ハ藤人のい
 たり正しと云支那正しと云一
 十二社權現ノ考
 内殿子ノ神寅ノ神巳ノ神を祭ると云
 以子生家の守護神なりと云

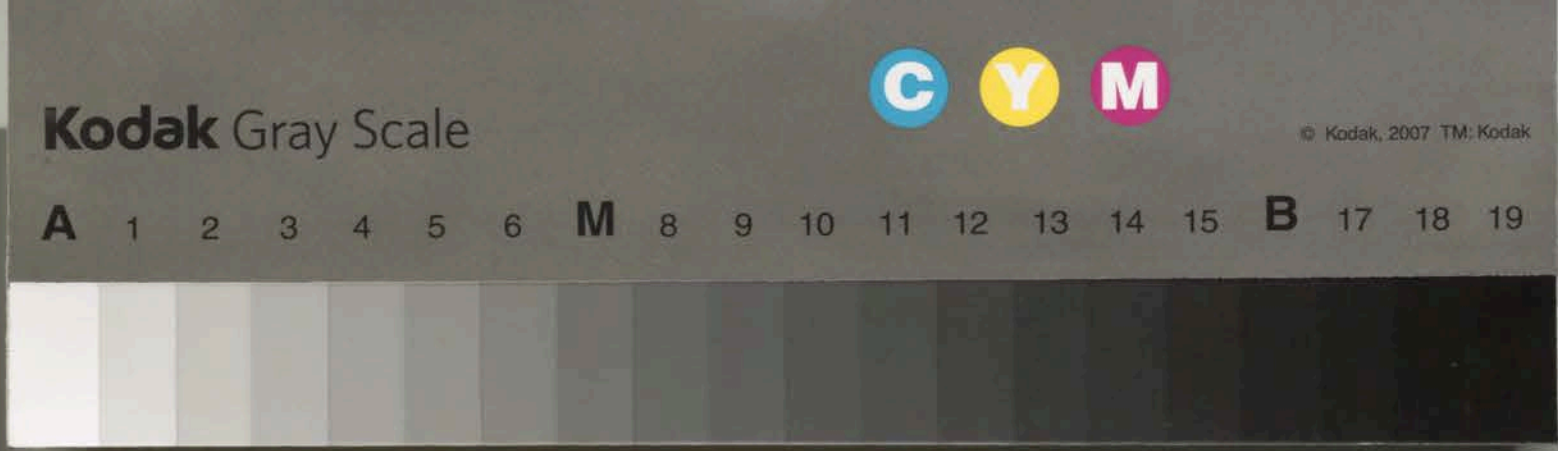
按に此三神、綱房父子兄弟三人の支子
 當^マを祭ると云一其故ハ今宮棟
 札子坐禪院昌膳年十七とあり天文之
 年甲午より前十七年ハ永正十五年戊寅
 之其前二年ハ永正十三年丙子之^ノ後四年
 大永元年辛巳之是等子依り^テ備考下
 此社ハ今宮造立より二年早しといふ爰子
 大聖あり今宮子小聖あり故子別當を押京
 山大聖院といふ昔ハ同所子小聖院持明院

押原推移録中、卷
 卅九

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2

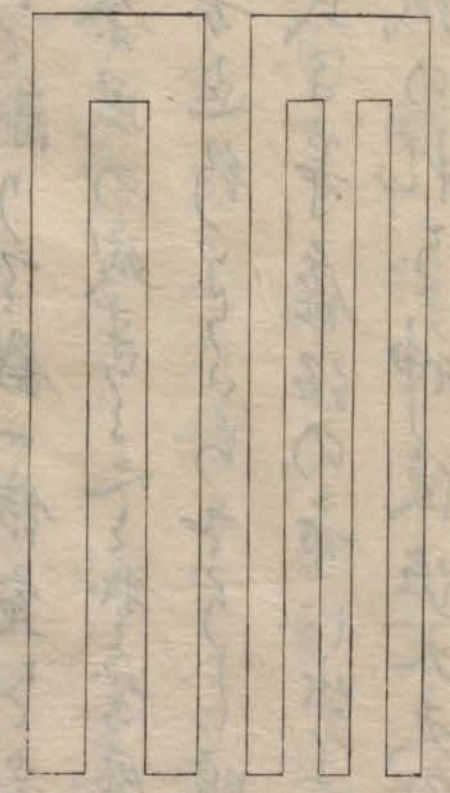




押原推移録中ノ巻

ニッ子製さハ
小の標

三ッ子製さハ
大の標



古老話云今宮神使佐太夫帝毎に烏帽子を
載き麻の狩衣を著し手にカ籠ルを持て商家
勿論在方より出さる商人但し表の川通り林に仮いせ
小サき紙を圖の如く断ハす

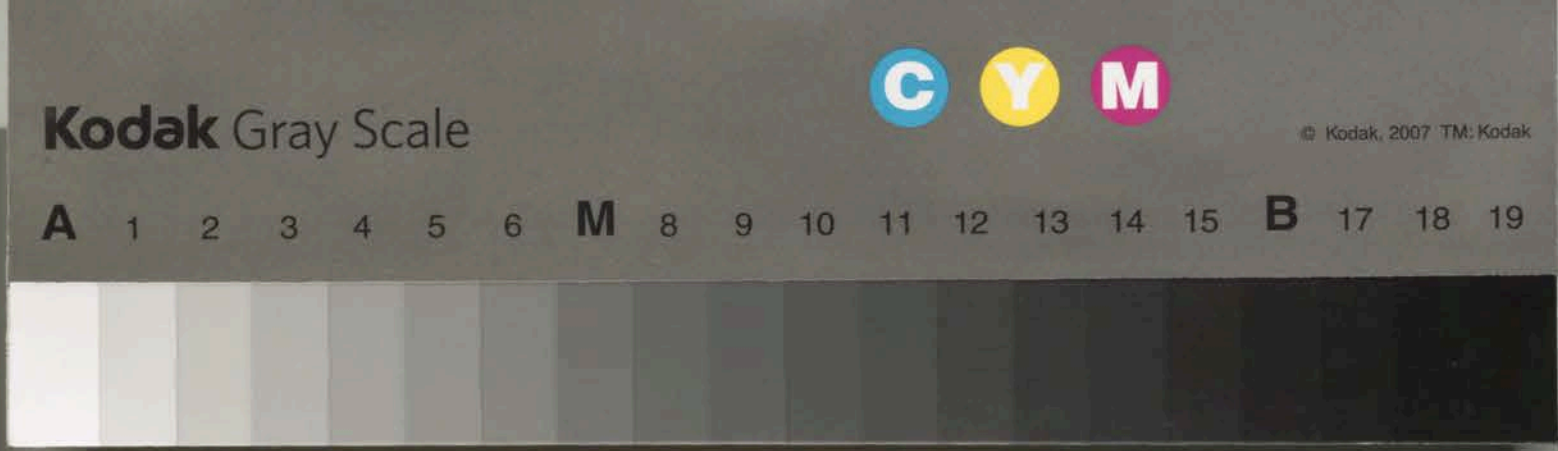
とて三院並びありしと我々且社前の馬場
南に通りにて今の東横町の中流乃西
ありしと我々其後往來の馬を繫イき且
見込に來しゆ田町の方へ馬場を向ケし
と我々俗子云疫病行は神の告ありて今の方へ移りし其時再
横町へ馬場先を向ケ間舗由の書附を東横
町より田町六丁へ出せし書附今以て社中
秘ありと我々

今宮神使佐太夫ノ古説

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





一人に一枚宛を配りて錢一錢宛を受る
 是則往古の余風の残まりと我々苦曆と不
 定のいまも在方遠行とらざりし頃うの
 六十六郷の氏子等鹿沼の市に出で右子
 圖す如き紙の札を神使佐太夫の件
 より迎へて其月の大小を知りしと之かく
 暮るき事の口碑に残るに附て往古の
 質朴ありし事押く知る最おもし
 き事ありしや

因に記に今宮社領年貢収納叔の金納相場
 を以て宿内定使并鐘突番人等の給米を所方
 より渡りし事往古より恒例之又宿内より
 小作受作の輩勝手とて地主の叔貢
 金納とありし時の領主より定めさせし事
 一末相場の高下に拘らる今宮の叔相場
 より金拾兩と貳俵高の積りを以て地主
 勘定をなはし是も又往古より恒例之其年の
 相場より依り格別に金納の方損失ありし事

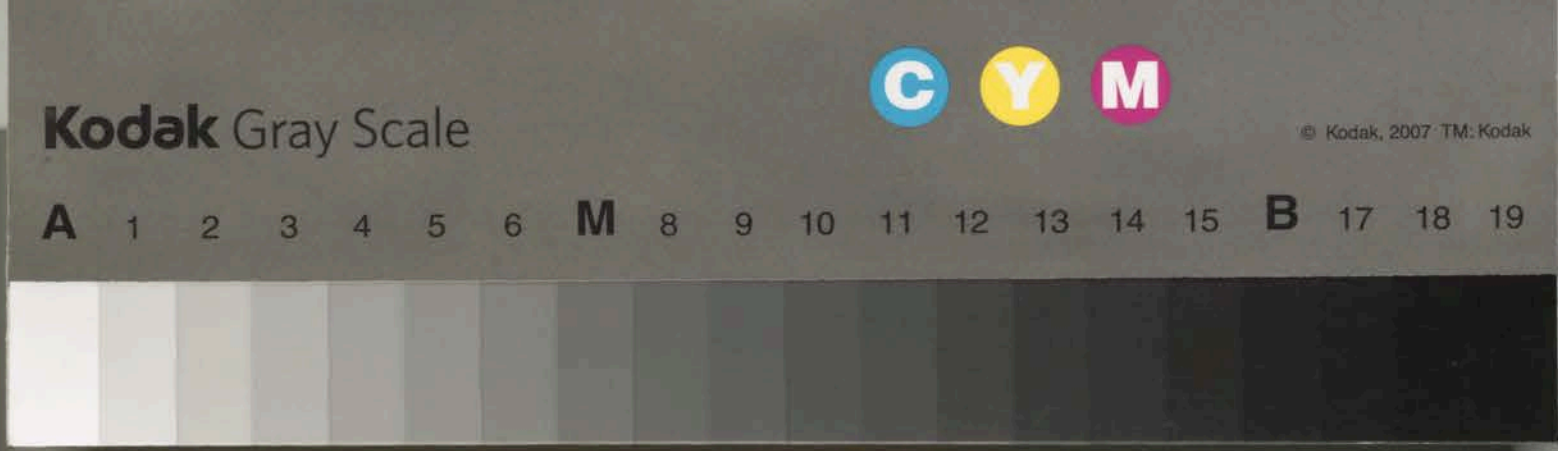
押原推移録中ノ巻

四二

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





あきとそは是又例とありて一言達乱の者
 故に今宮の穀相場の成丈下直に多之是
 陰徳の一ツありし時の領主より定らる
 り穀問金の相場も均しく今宮を以
 規矩とする事珍しくもすや

今宮神社實什
 例年七月七日朝神實風入
 一御朱印 穀通

下野國都賀郡鹿沼押原町とあり
 或鹿沼町ともあり

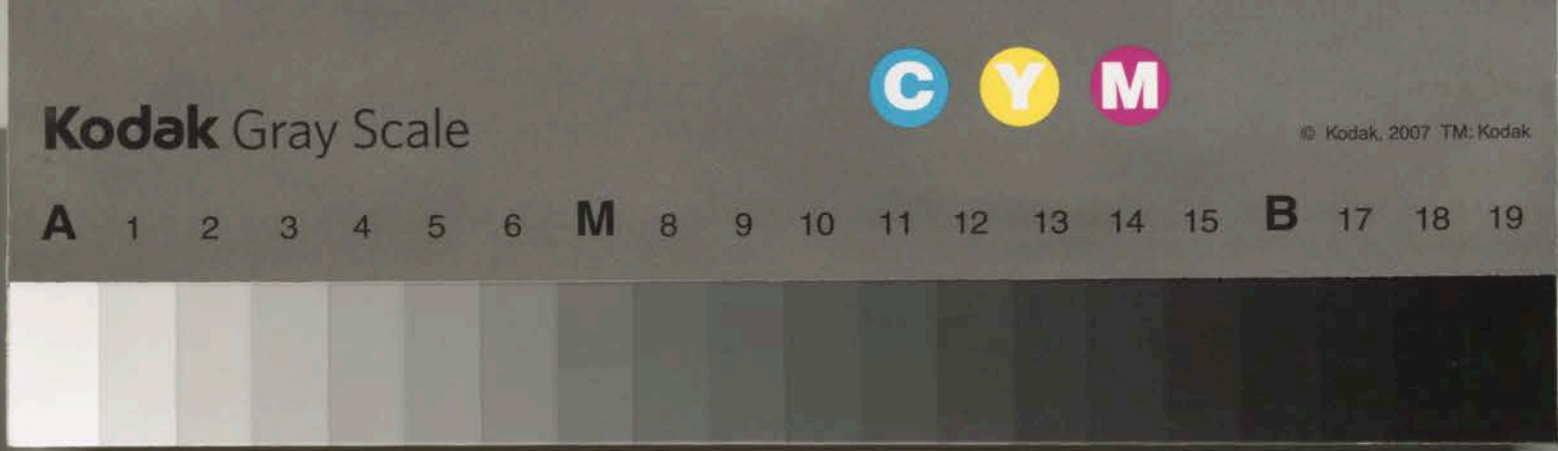
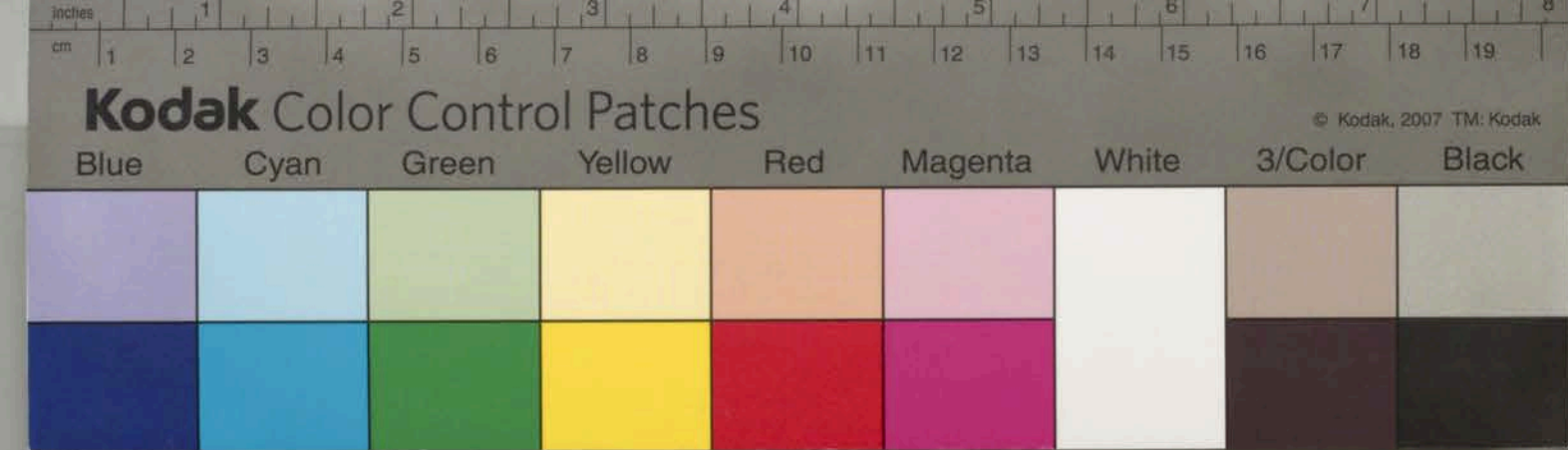
一 百馬の繪巻物 一軸 雪村筆
 卷末
 今宮玉殿
 奉進納 神馬百疋
 天文十五年六月廿七日 雪村奴

一 祖母懷茶壺 一個 高一尺五寸許
 周三尺五寸許
 祖母懷ハ尾州瀬戸天正
 以前の物のより書甚妙

此器當社第一の神實の由之度盛子達
 三度共に自然と取り来りしと云

押原推移録中巻





一獅子頭 木彫丹塗 權九郎殿之俗子 日本三ツ外まじト云
二百余年前の物あり
 一唐銅獅子 一匹 以前二對の由中頃 一個を盗ま
 一三十六歌仙式帑 画者筆者詳あり
 一葱寶珠 延寶九年宇都宮 高橋加兵衛作とアリ
 一笛 天文廿四年乙卯とあり廿四年改元弘治元年之 廿四年と記ヤり由之古物あり
 一懸幅類 數種
 一水晶ノ珠
 一青磁ノ人物
 一八坂瓊勾玉 二個
 一臺上方寄合書近江八景式紙
 一唐蔑硯箱
 一子安貝
 一鐙口 巨り一尺八寸計り 小粒判三程切抜るあり
鐙口の辺りに彫附る文字
 表 鈴木安穩諸人伎樂如斯
大工 岩本兵庫助
 鹿沼 今宮權現
 奉修造
 當上人法印賢意成就

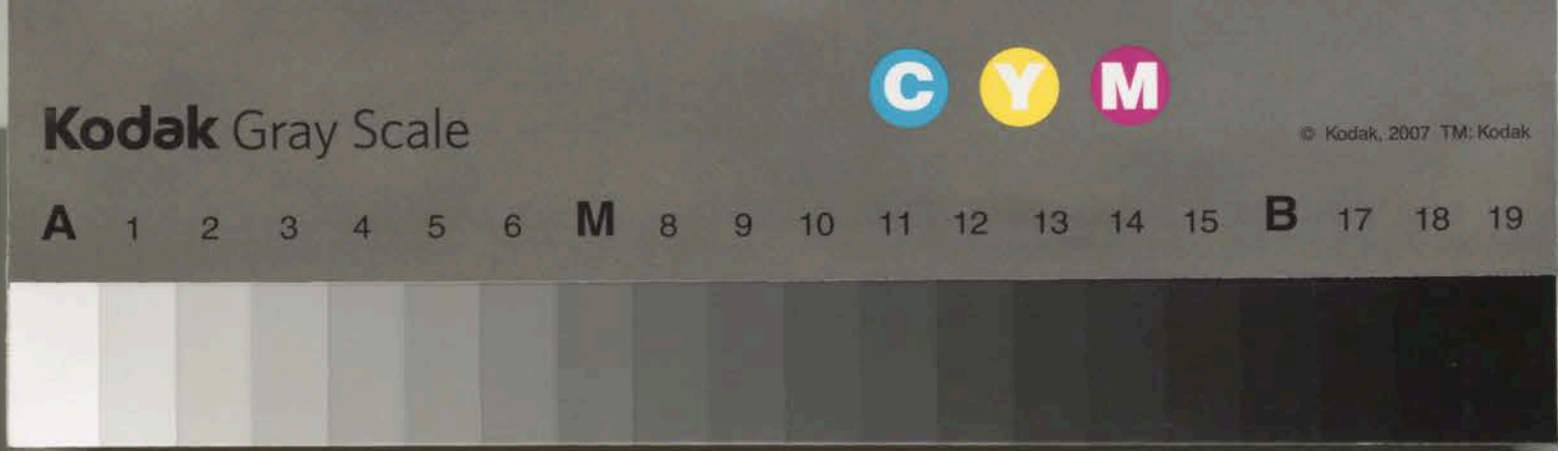
押原推移録中ノ卷

四十三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





重書
永禄二年一月八日
大且那
伊豆守昌歌
壬生下總守綱永

愚按に此綱永と云く人壬生系圖より云く
綱永綱房一人兩名とも定まらざりて
天文三年より永禄二年八月六年後
綱房年齢此時凡六十才餘ありて
初名綱房とて後綱永と改名せりとも
異言

棟札銘口共々文字顯然と云々今社以て
あまは極う
再按に綱房綱永ハ同人ト非ハ其證ハ棟札
天文三年壬生下總守綱房とありて其後
四十二年目天正四年綱房天神の社前を
裁せり云々由徳書ト載り天文三年綱房
と号せり云々永禄二年の頃綱永と改名
て又その後天正に及びて初名綱房と名乗
り非ハ是に附くも考り出せり壬生系考

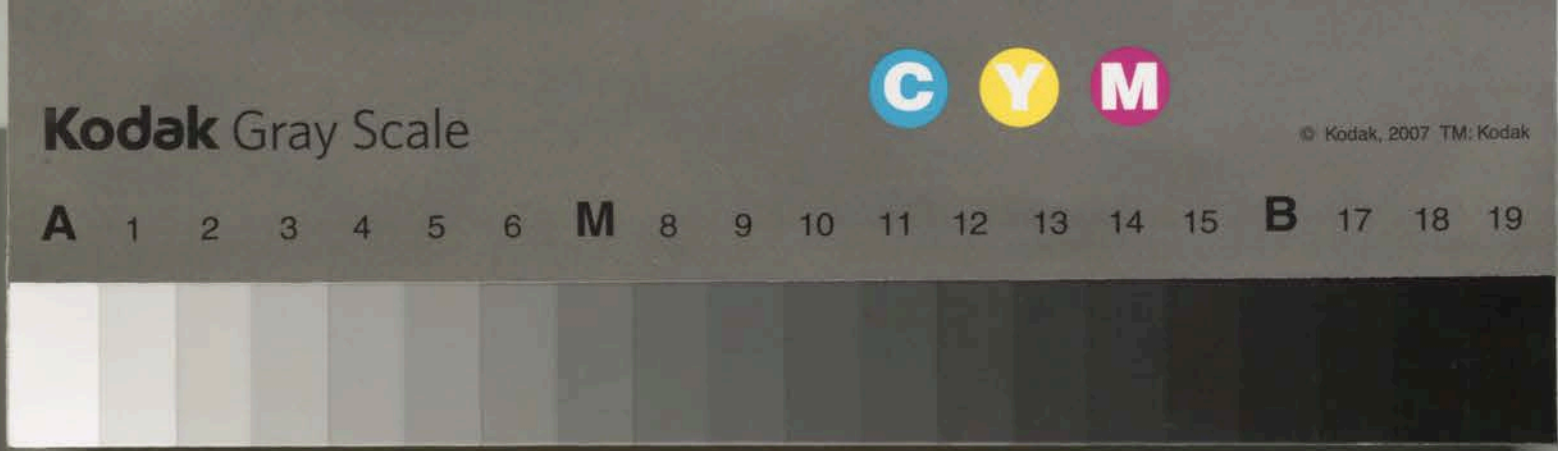
押原推移録中、卷

四十四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





綱雄の辨論に照し合せしむ一 天正四年
 徳節齋の害せしむ一 綱房に非ざる
 証とす一 免子角壬生系譜の錯乱せし
 今に於て悉く考訂あり終に蔵者の
 辨を待のこ
 一 相紙金匠大般若經 一卷
 卷末
 今宮權現中寶前 願主大藏
 取次印田主坐禪院昌顯
 天正五年辰正月廿一日

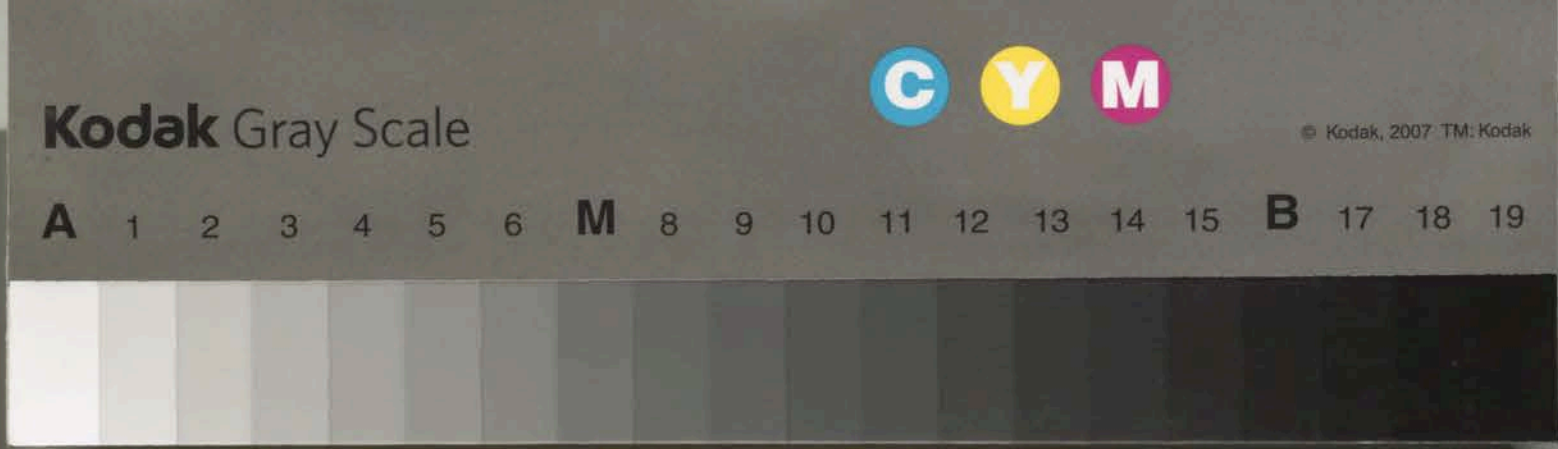
按に此大般若經則御所森に鎮坐ありし時
 より寶物ありし一 新造棟札天文三年
 卜守廿七年 前の年号ありしハ之
 此外實什數品記一 盡以一すハ
 今宮華表ノ類
 一 今宮社前華表の匾額ハ僧正運敬の書あり
 多治寛文の頃の人や性靈集を注一 谷郷音
 集正續廿卷を著ハ
 櫻ノ馬場

押原推移録中巻
 四五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





櫻の馬場といふ今宮社人福田氏住居の地此
 邊ありと持し壬生家在城の時此馬去馬場を
 りと古老の語之

今宮再建棟札

慶長十三戊申年
 聖主天中天
 大行奉帝釋天王
 今日戒師赤勒菩薩
 碑文師文珠師利菩薩
 澄戒大梵天王
 諸行事普賢菩薩
 諸行事或觀世音菩薩

三月十七日
 哀愍衆生者
 我等今歌礼

當所代官所
 大河内金兵衛秀綱

奉成統當社今宮御殿上管
 本願 大谷常喜齋
 山口四郎右衛門兼次
 息力善
 息大弟

當上人藥定寺權大僧都弘意
 奉行 花藏院
 山口宗羽齋

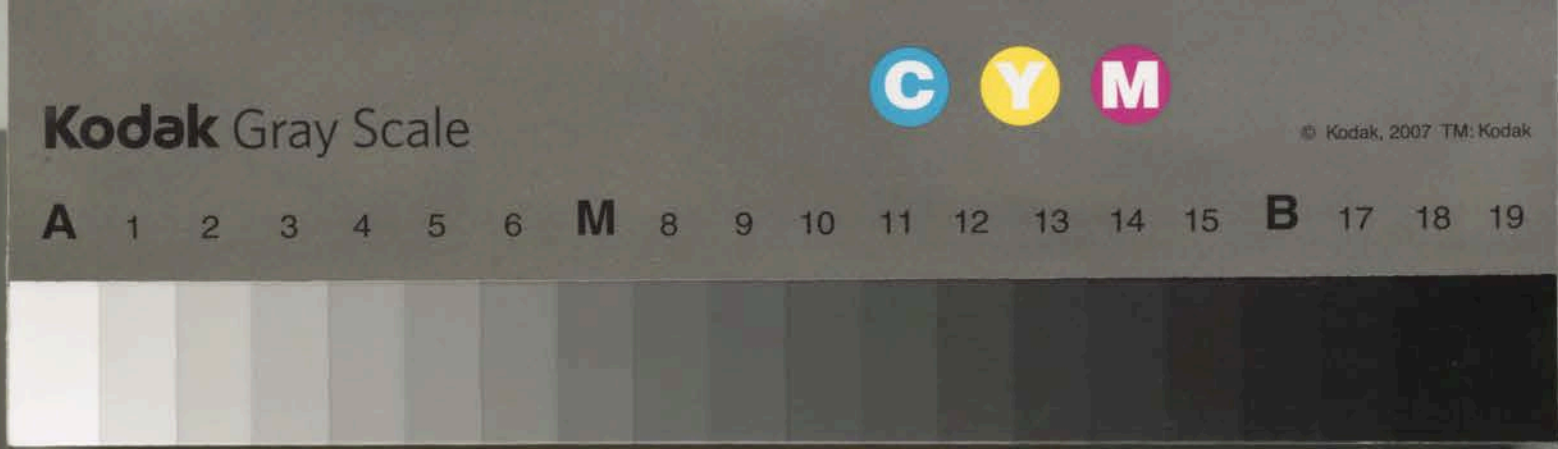
松嶋惣右衛門
 井矢野藤左衛門
 池矢五郎右衛門

押原推移録中巻
 四十六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





押原推移録中ノ卷

銀治奉行

四七

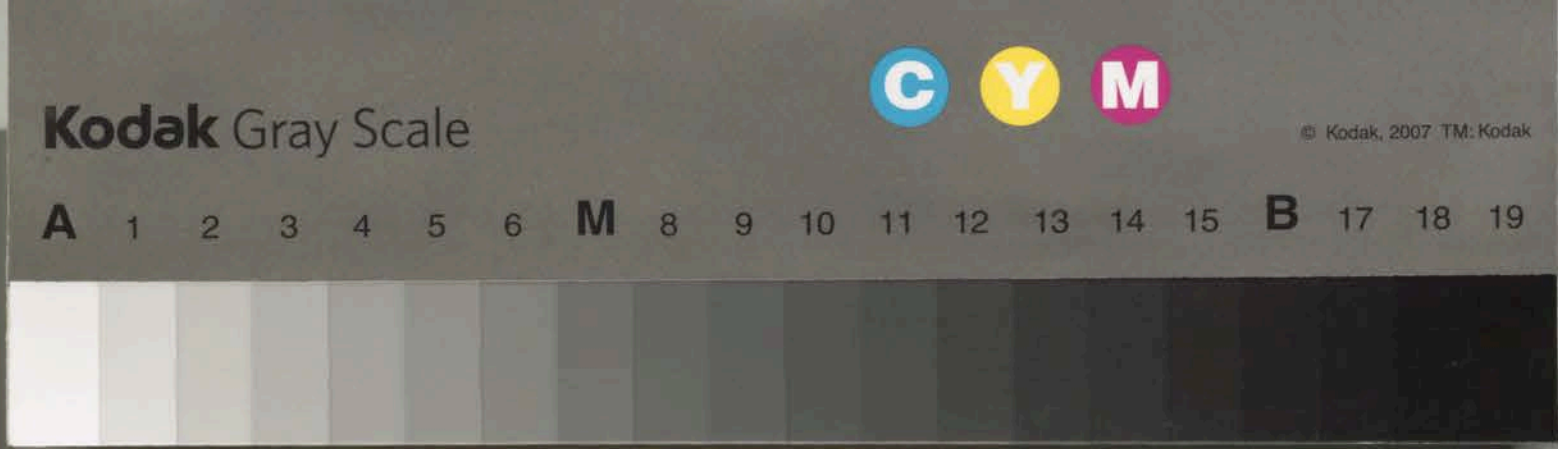
新田守次傳五重 白金新右衛門
 中島新右衛門五重 嶋田半助
 鈴木河内守
 澁江縫殿助長宗
 藤田若狹守
 澁江内蔵之介
 藤田兵部少輔

井矢野與作
 竹岸茂右衛門
 柳田新右衛門
 松嶋助左衛門
 井矢野源七郎
 松嶋新右衛門
 太郎部與兵衛
 野中太郎右衛門
 嶋田勘解由

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





同棟札
 寛永十二乙亥年霜月大上
 井上河内守藤原正利
 御内
 中嶋清右衛門正吉
 津川長九郎正重
 倉賀野長左衛門綱重
 黒川五郎右衛門○光
 安部并忠兵衛
 菅代官
 松嶋惣右衛門朝重
 本願
 山口四郎右衛門○次
 中供内女官
 阿部對馬守藤原重次
 御内
 渡邊與兵衛光鑑

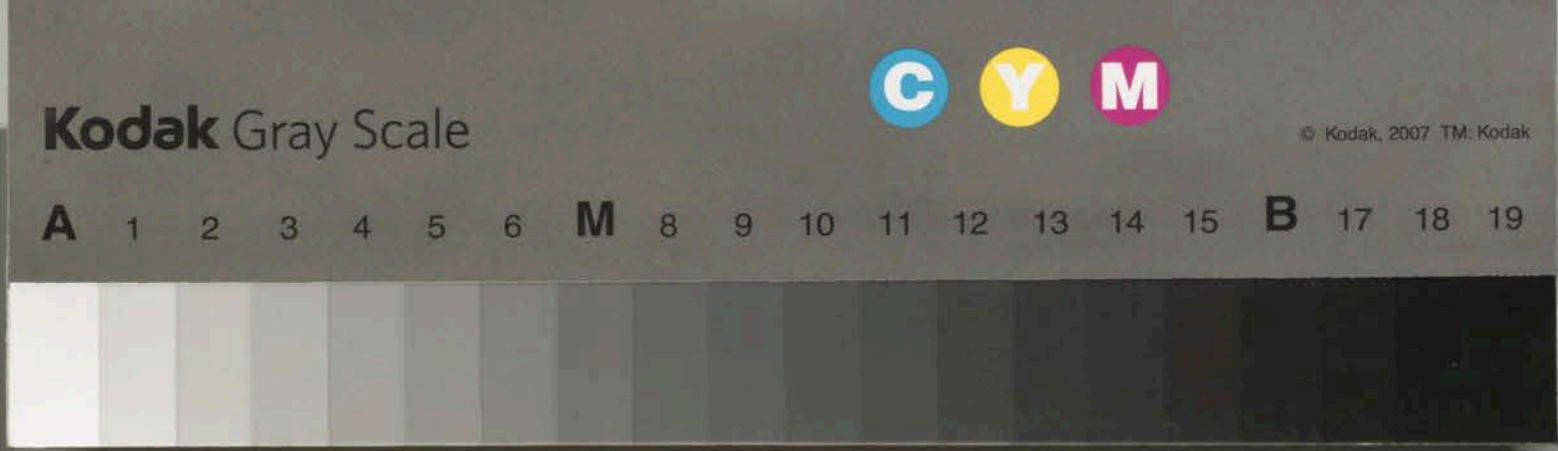
鍛冶
 町田源七郎
 竹澤右京之介
 惣右衛門

押原推發録中ノ卷
 四十八

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





押原推移録中ノ巻

南摩

安生助左衛門
 黒川市左衛門
 羽田流左衛門
 伊谷久右衛門
 舟越雅樂之丞
 嶋田善右衛門
 伊谷與次右衛門
 松嶋新右衛門
 柳田孫左衛門

名取亦左衛門正勝
 當代官補氣重光
 良知縫之助長久
 松平右衛門太夫源正次
 江戸愛宕
 圓福寺法印
 奉加元

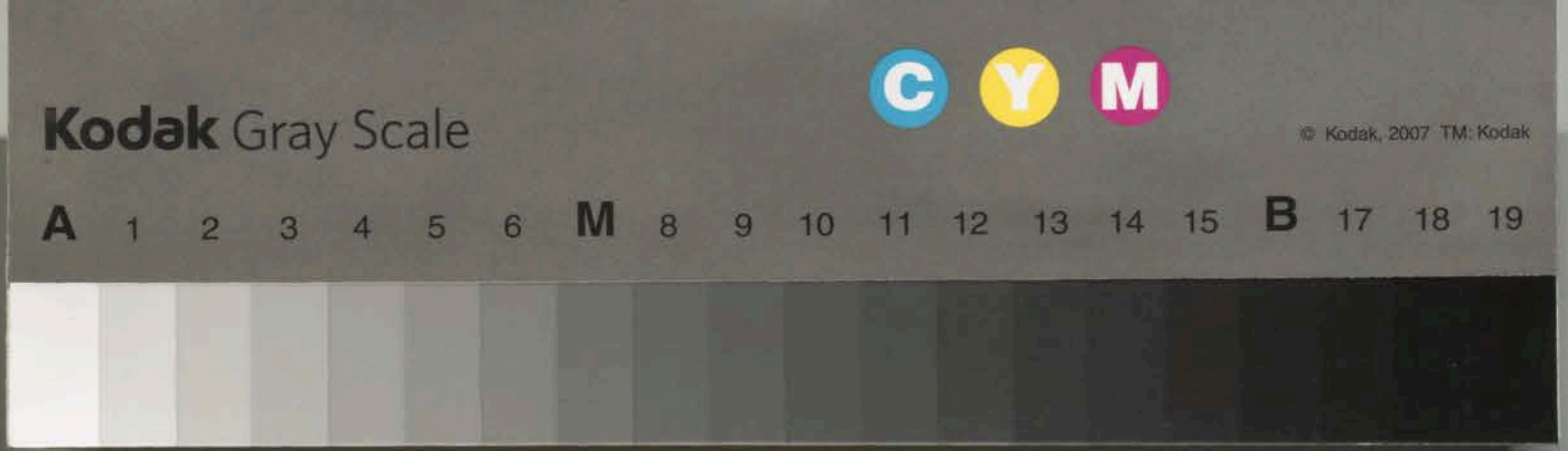
松嶋常貞
 鈴木宗味
 福田宗喜

四十九

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





権現曲輪考并所割の説
 按に曲輪といふは惣名より今之別所重裏通り
 西の方ある道を隈として今宮隈内の惣を
 いたる名ありて一とあるは二の廓クワ三の廓といふ
 ことこの丸之の丸といふに同く惣を今宮別所
 西の方にあるかさき山のことをさして権現曲輪
 といふは俗の唱誤りありて一古光云伝ふは
 今宮の社檀寺向く城内より道の道ありて
 爰に鎮坐ありて何を此の比より歟今の字

大谷 泮左衛門
 伊谷 藤左衛門
 同 彌 作
 角田 作十郎
 森田 嘉右衛門

按に予先祖兼次の子重次といひ一人あり今
 此棟札に〇次と記して重の字を書きよふ
 阿部公と同名とらうゆゑに憚り避て岡字
 せしあり

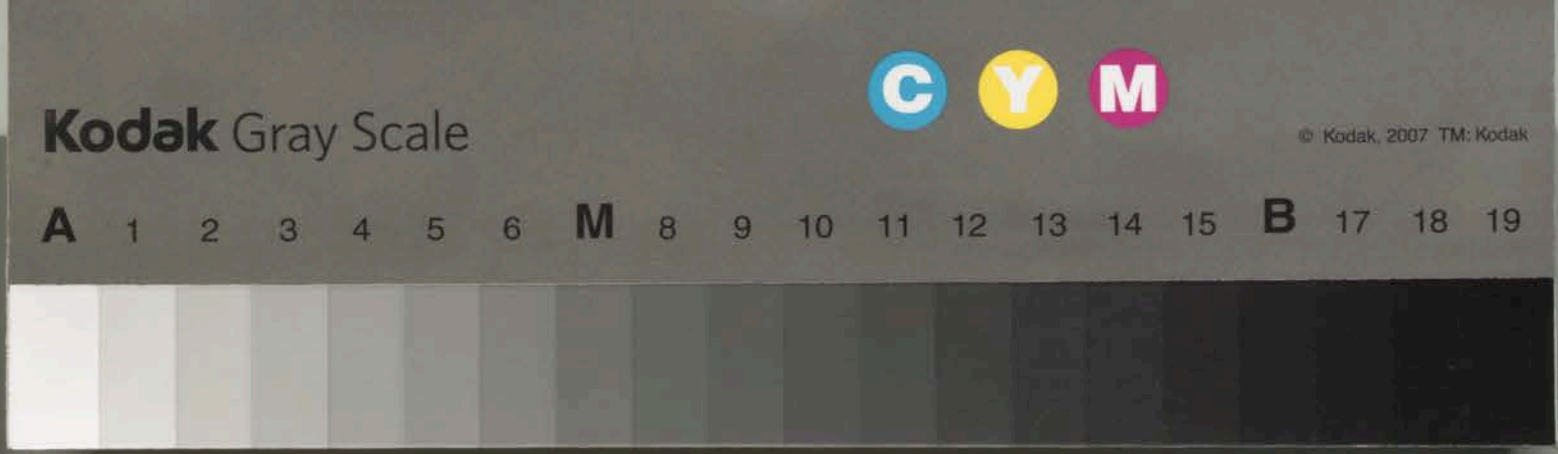
押原推移録中巻

五十一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





遷坐あり奉遷するに及ばずも此曲輪と号せり
 小山に登りて其跡を以て南北三十間計り
 可程平地より社殿の跡もあはげしき所
 ありて西の方段より低く城より通りや
 といふ道の跡はこれやと思ふも可至残り
 されと今宮の記銘より此事絶てなく又善
 ふるき苗書の表を涉獵すも其校を
 知らず是より依り思ひ巡行に前より出でる慶長
 十二年再建の棟札あり又寛永十二年の

棟札あり慶長十二年より年数僅に廿年
 目にして寛永十二年の棟札あり終ふ
 按に慶長再建の社殿今俗より不権現曲輪
 の山の上にして寛永年中故ありて今の所
 より移し祭り奉りしありしきよ前より録せり
 坂田福首の遷を奥州海道ありといふも新町
 裏並木より通行せり往還のさぬ似つらんと
 謂つて一して今宮の社頭を寛永年中南
 面に遷坐あり奉りし古の奥州海道の遷

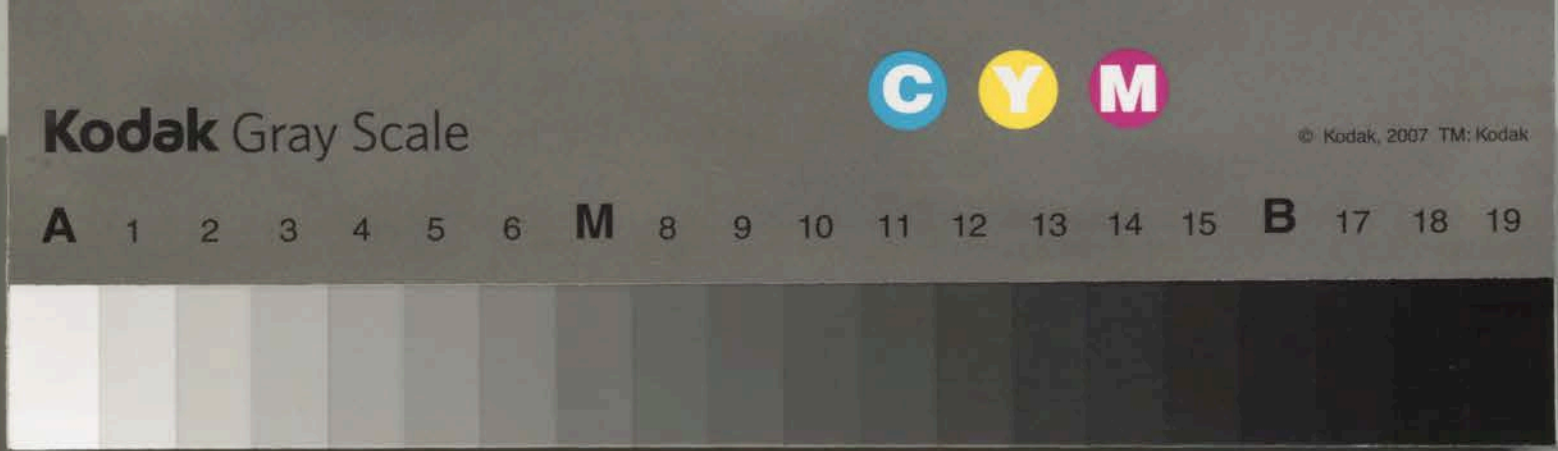
押原推移録中ノ巻

辛一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





をすくに今宮の馬場をせしめし
 再按に古々の話に松嶋氏の先祖は奥州
 塩竈の産あり往古鹿沼の所刻を定むる
 に塩竈の所乃形を模以因て其堅横用水
 の便多くハ塩竈の所刻に彷徨しりとき
 此説より時々の寛永年中棟札に當代宮
 松嶋惣右衛門朝重とあり此人初て所刻を
 巧みせしハ非ざる歟然る時ハ上子云く如
 古の奥州海道を塞ぎて宿地往還を閉

今宮の社頭を轉し移せしはもあつて
 安し難き事なきと唯予の推量の説を以て
 試み記に於て深く考へし
 又按に田所内町市場出入の節田所より出
 込處の訴状云鹿沼宿の傍ハ慶長六年
 大河内金兵衛様が支配より時始て所刻
 を定めしと云
 上に出せる考より慶長六年ハ年數二十
 五年以前之なきと試みいり大河内氏ハ唯

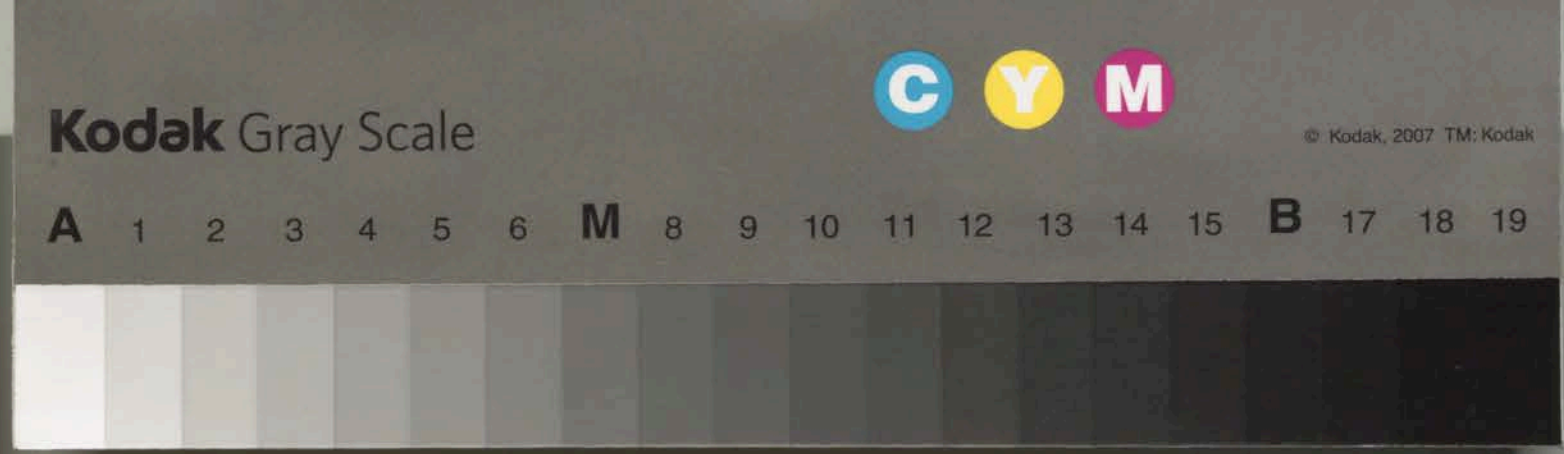
押原推移録中ノ卷

五十二

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





凡の所刻を定めしきしを其後寛永十二年
 に松嶋氏の便利に任せ改めしきしをも
 あらしき近き禮を以ていり今の新町
 多く畑地草より享保年中始て鹿沼
 石高子入りて押込西町新田と号せしむ
 如し然るに人家追て建列軒を並つて
 今昔の影よりいふ戸張杯いへ更なる
 予壯年の頃よりいふも人家倍せ況や二百
 余年の昔乃世の中思ひや

今宮別所石燈籠由来
 并 宿助成金始

柿沼廣運老人話云今宮別所の前ある石燈
 籠一基享保年中當地代官より鈴木
 平十郎正誠の獻せしむ之を元禄戊寅
 年當宿本陣治左衛門宅焼亡せしむ
 公儀に奉獻了金三百兩拜借せしむ本陣の
 家居營建りし程なく本陣又類火を焼失
 續き主人治左衛門も病死ありしむらうの

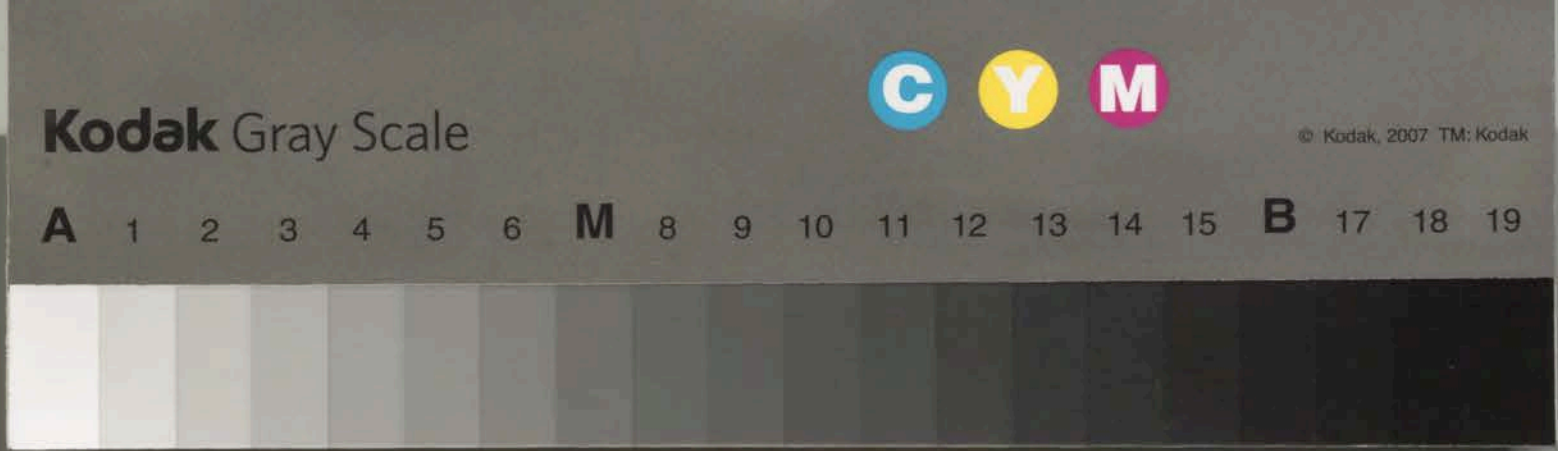
押原推移録中ノ巻

五十三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





拜借金上納の術盡す詮方あり是を於て
 公儀より宿内より辨納を以てき由命せし
 りるに享保十一年鈴木君支配とありしに
 々の拜信を辨納せんは百姓等格別に
 難忍あるべき旨憐れ之心深く其難義を
 救給ひ且當宿永々の為にもあるべき事を
 工夫ありて公儀に申取の上治左衛門田畑金鋪
 小市賣掛あさむし金百兩出来せしは則其
 金子を支配の村に貸し附りあるべき利信
 金に操廻し給けしは程あり大金とありしもの
 三百兩滞りあり上納と成りしとて其餘は
 金を亦貸し附りしは利是年々
 嵩之明和二年より至るは公儀より利是下
 給りぬ今に至りては一年に利を九拾兩餘宛
 給りて宿内人馬役勤者共々今と與て民
 皆余澤を蒙りしは是今鈴木君の
 賜ありしにやまはりの石燈籠ハ則彼君乃
 遺物なりしは岩所の人等々の君功を仰ぎ

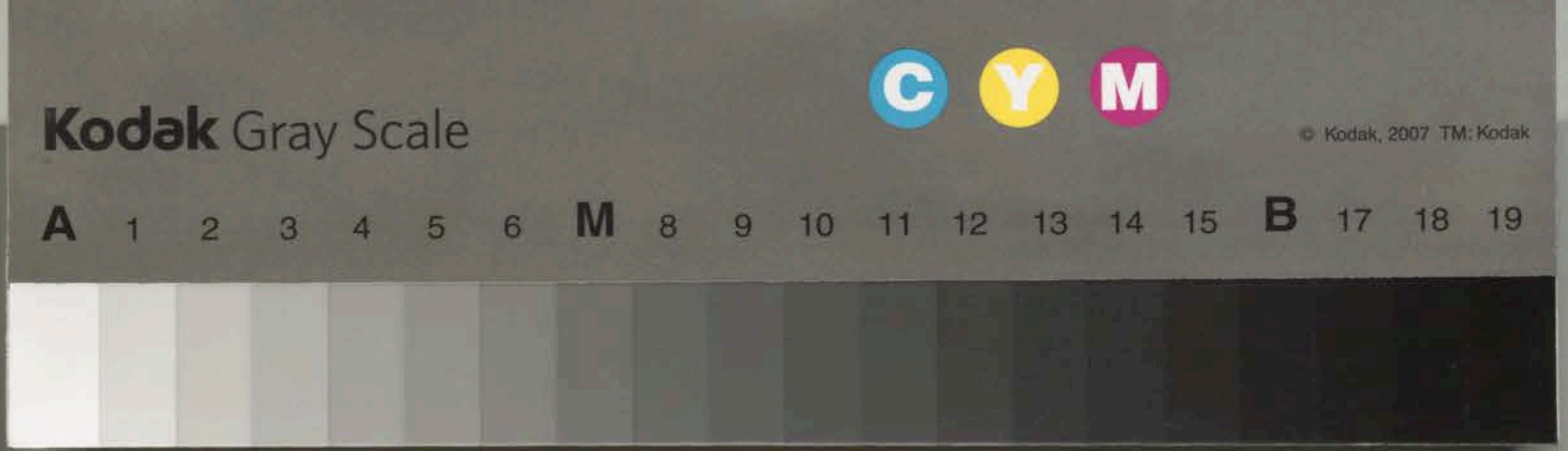
押原推移録中巻

五十四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





予家の口碑に傳ふに壬生義雄鹿沼の没落
 して後兵士群盜の爲に乱妨せし事今宮
 の神社荒廢に慶長十二年天正十八年義雄予
卒して十九年目
 先祖山口兼次大谷常喜齋是を歎き衆と共
 力を合せて神社を再建棟札今を以
神殿に納めて社家共
 授り今宮神領を管する事筆術に
 たり故に兩家心を合せし權に今宮の
 所務を掌りて格年に支配嶋田惣右衛門 舟越漆書門
竹谷百郎南門 伊矢藤南門
 年番より支配せし事名に番の文字を加へて
 代官番といふふ事一慶長年間の今宮手
 貢收納帳の類并今宮水帳の寫舊記の類
 今よ兩家よ在り
 今宮祭禮始
 慶長十二年戊申三月今宮神社再興今宮
 夏大に旱魃一水乾き苗志はて人皆

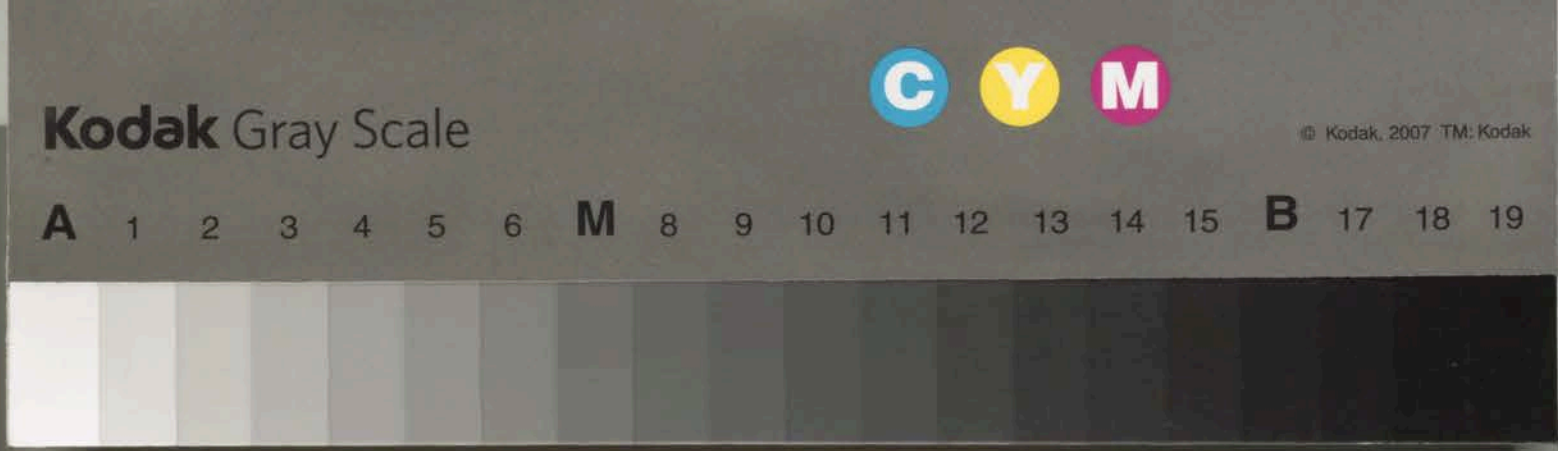
押原推後録中巻

五十一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





薄氷を踏く地し心易く是に依て近
 御近村を初免氏子の者も別所神宮寺に
 集りて奉幣し今宮の神に雨を乞ふ事
 三日に及ぶ然るに新夕ある奇瑞ありて天候
 日雲を雷雨を傾く如く六月十九日
 廿日夕に至りて空晴る衆民鼓腹して大に
 悦び神徳の驗を尊きて種々の捧物あり
 都て此事を掌りて予先祖兼次大谷常
 喜齋ありき別々氏子の輩ハ子孫にあり

了此神徳を忘る奉る事なき為とて同十四年
 六月十九日を雷宮とて廿日を祭禮の當日と
 定めし餅榊ホを出して神に謝し奉る日光三社
を移し祭れり多きハ祭禮ハ三月 是を例として昔ハ毎年
ありつゝと六月と七月ハ此ハあり 祭禮を多ししつ乃頃より歟ニケ季に
 一度とありて練物附祭等も出はやうあり
 ぬはは藝場の事なり初めて記さずはけり
 事多しと予家のるを淫く尊むは似てか
 といふいふけりハ業を止む

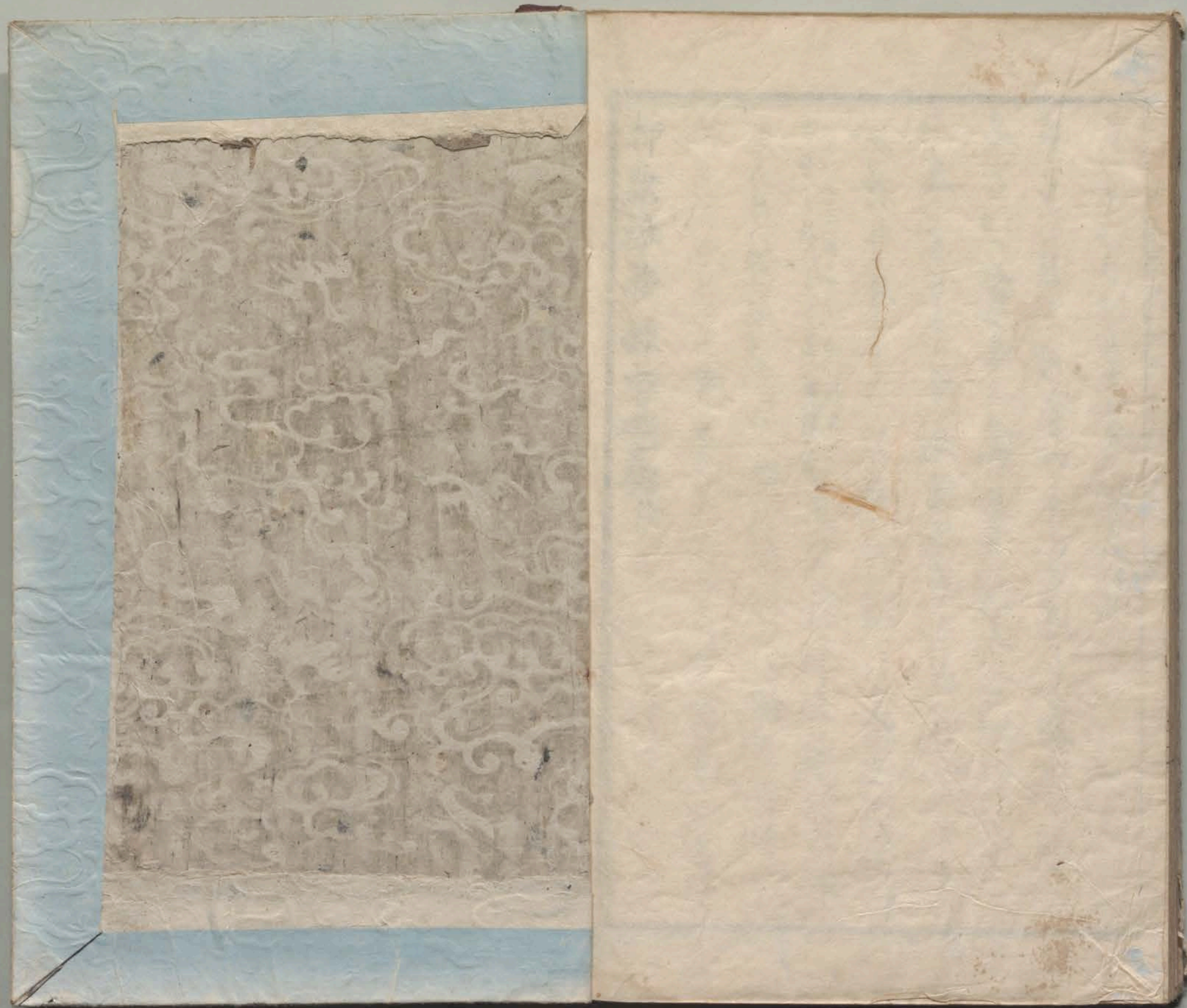
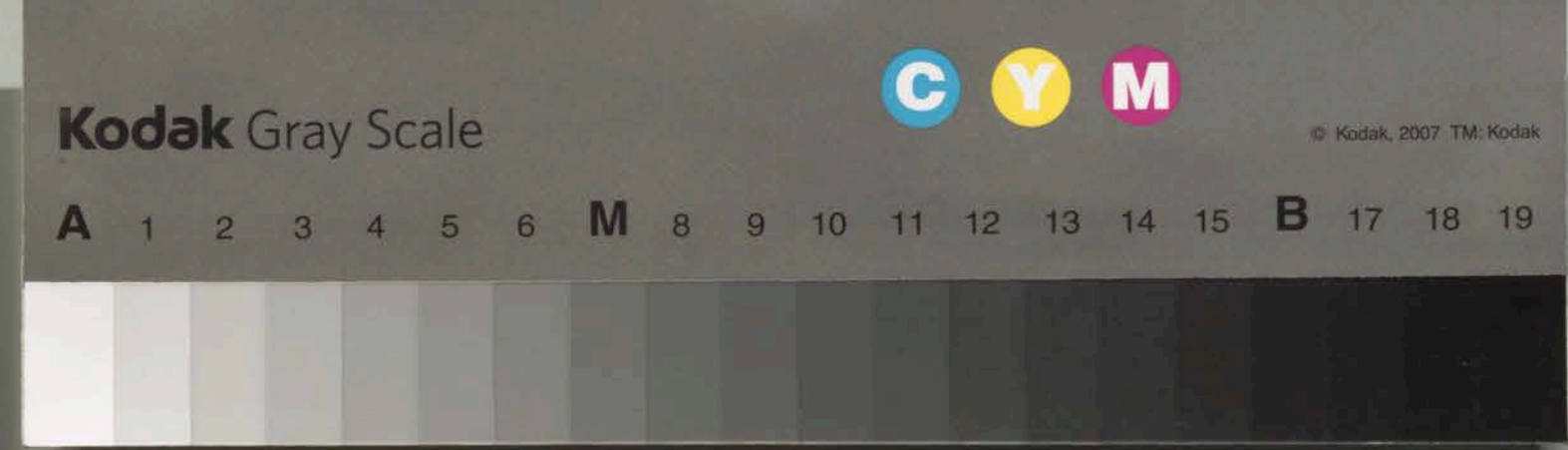
押原推移録中ノ巻終

五十七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2

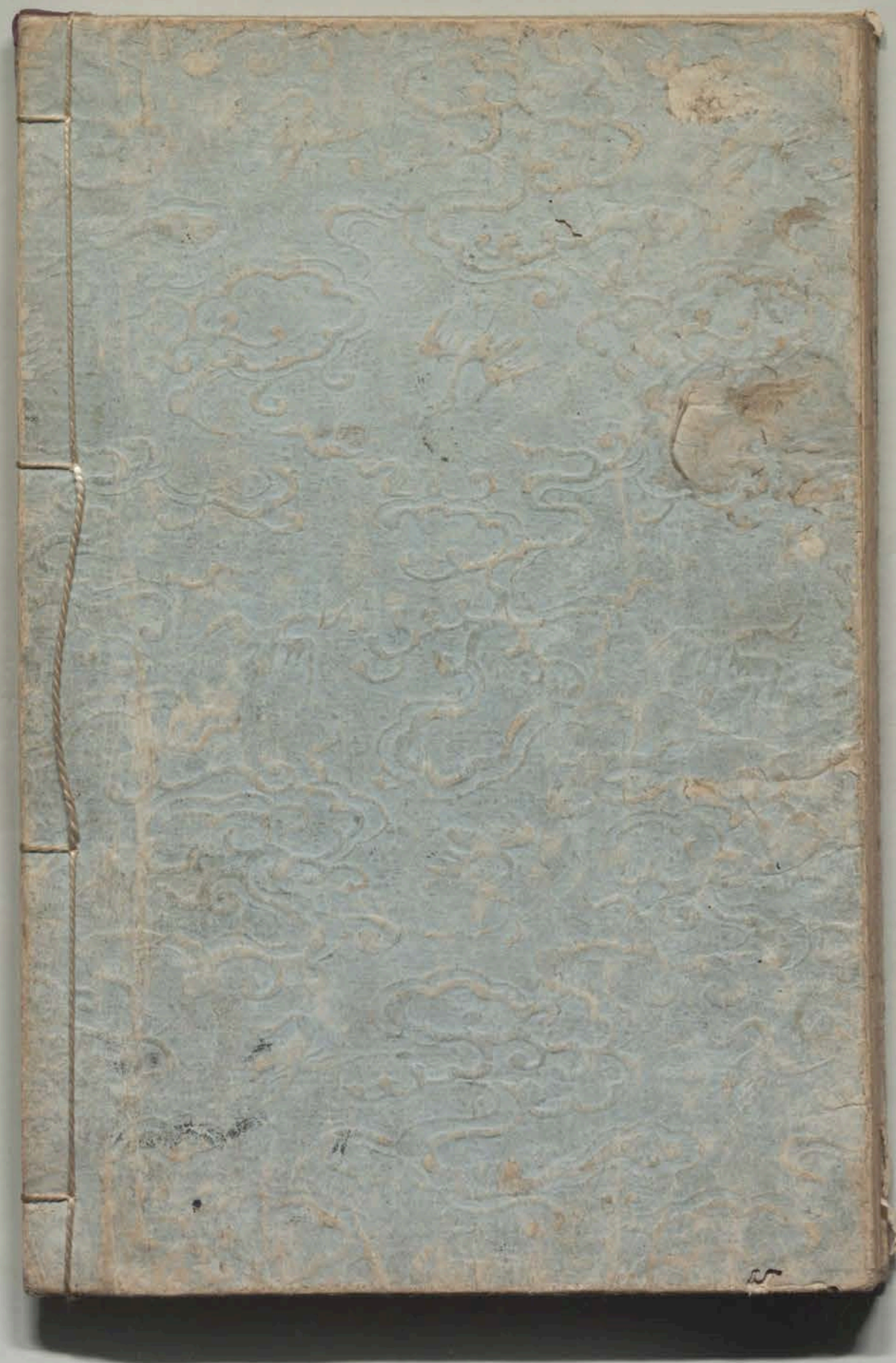
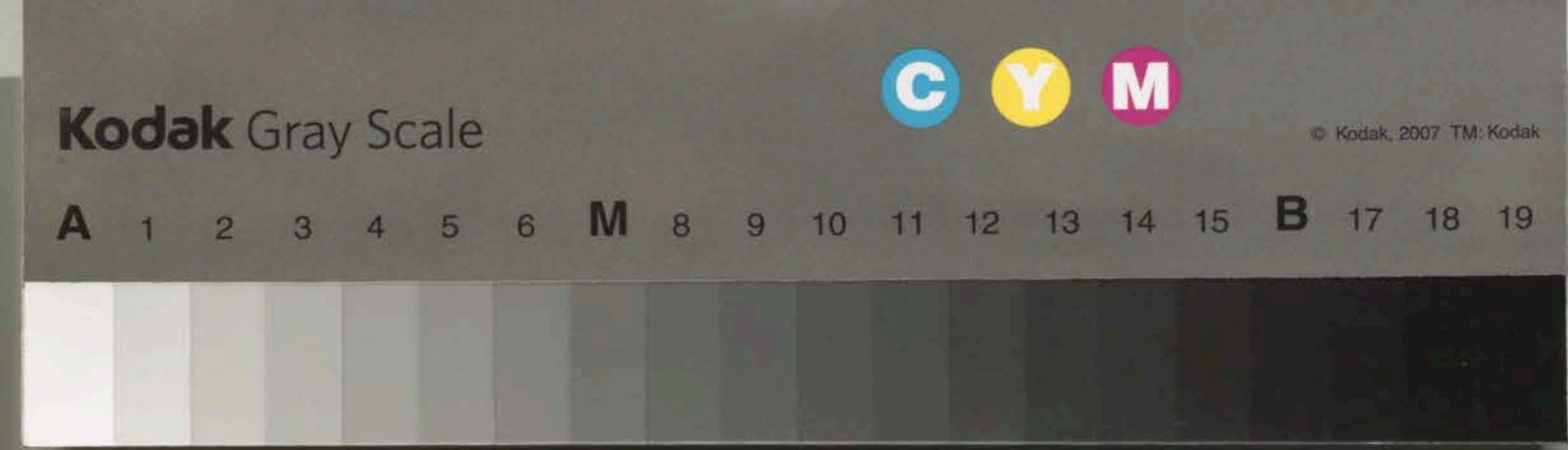




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2





142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-2

